ISSN 1341-6952

東北大学埋蔵文化財調査年報23

東北大学埋蔵文化財調査室
2009

東北大学埋蔵文化財調査年報23

東北大学埋蔵文化財調査室
2009

序

東北大学構内には、仙台城跡二の丸地区をはじめとして、多くの埋蔵文化財包蔵地が知られている。

本書は、平成17年度に東北大学構内で実施した、施設整備に伴う埋蔵文化財調査や、それに関わる整理作業、研究活動などの事業概要をとりまとめたものである。当年度に実施した埋蔵文化財調査は、立会調査10件であった。各種施設の改修工事が増加しているため、立会調査の実施箇所が増加したのが、当年度の特徴であった。これらの調査の結果、遺跡に影響が及び、本格的な発掘調査が必要となる事業は、幸いなことに無かった。そのため、本書での調査報告は、短いものとなっている。

東北大学の川内地区に広がる江戸時代の遺跡は、ごくわずかな範囲からでも、時として大量の遺物が出土することもある。そのため、小規模な掘削工事があったとしても、慎重な対応が必要となる。埋蔵文化財調査室では、これまでに蓄積されたデータをもとに、遺跡へ影響を与えないように努力してきた。当年度の調査箇所では、結果的に遺構・遺物の発見には至らなかったが、その調査データを公表して、知見を積み重ねていくことは、遺跡の正確な把握のために重要な作業である。そのような意味で、本書で報告されるデータが活用されていくことを望むものです。

調査に至る調整段階から、調査の実施、さらに報告書の刊行に至るまで、施設部を始め、大学内外の関係者および関係機関には、多くの御協力を賜った。ここに厚くお礼申し上げる。

東北大学埋蔵文化財調査室
室長　阿子島　香

例　言

1．本年報は、東北大学構内において、東北大学埋蔵文化財調査研究センターが2005年度に行った遺跡調査、ならびに研究成果をまとめたものである。

2．調査・整理作業は、東北大学埋蔵文化財調査室が行った。

3．本年報の編集は、阿子島香の指導のもとに、藤沢敦が担当した。

4．本文は、藤沢敦が執筆した。
英文要旨については、藤沢敦が作成し、阿子島香が校訂した。

5．調査記録は、東北大学埋蔵文化財調査室で保管・管理している。

凡　例

1．方位は真北に統一してある。

2．図１と図２は、それぞれ国土地理院作成の、２万５千分の１地形図「仙台西北部」と「仙台西南部」、１万分の１地形図「青葉山」を使用した。

3．川内地区の仙台城跡二の丸地区、および二の丸北方の武家屋敷地区にあたる地域の地形測量図は、仙台市教育委員会の作成による「仙台城跡地形図」（縮尺500分の１）を使用した。

4．国土座標値を用いる場合には、日本測地系と世界測地系の別を、それぞれ記入した。

5．引用・参考文献は、巻末にまとめた。また本文中で、『東北大学埋蔵文化財調査年報』を引用する場合は、年報１という形で略記した。

東北大学埋蔵文化財調査研究センター運営専門委員会（2005年度）

委員長	センター長（文学研究科　教授）	阿子島　香
委　員	施設整備・運用委員会川内キャンパス整備委員会委員（国際文化研究科　教授）	布田　勉
	施設整備・運用委員会青葉山キャンパス整備委員会委員（生命科学研究科　教授）	河田雅圭
	施設整備・運用委員会星陵キャンパス整備委員会委員（医学系研究科　教授）	北本哲之
	施設整備・運用委員会片平キャンパス整備委員会委員（金属材料研究所　教授）	渡辺和雄
	文学研究科　教　授	須藤　隆
	文学研究科　教　授	今泉隆雄
	文学研究科　教　授	大藤　修
	理学研究科　教　授	藤巻宏和
	工学研究科　教　授	飯淵康一
	総合学術博物館　教　授	柳田俊雄
	施　設　部　長	長沢　護
幹　事	施　設　部　企画課長	佐々木　力

東北大学埋蔵文化財調査研究センター運営専門委員会調査部会（2005年度）

委員長	センター長（文学研究科　教授）	阿子島　香
委　員	文学研究科　教　授	須藤　隆
	文学研究科　教　授	今泉隆雄
	文学研究科　教　授	大藤　修
	理学研究科　教　授	藤巻宏和
	工学研究科　教　授	飯淵康一
	総合学術博物館　教　授	柳田俊雄
	調査研究員（文学研究科　助手）	藤沢　敦
	調査研究員（文学研究科　助手）	柴田恵子
	調査研究員（文学研究科　助手）	高木暢亮
	施　設　部　企画課長	佐々木　力

目　次

序
例言
凡例
東北大学埋蔵文化財調査研究センター運営専門委員会（2005年度）
東北大学埋蔵文化財調査研究センター運営専門委員会調査部会（2005年度）
目次
図目次
表目次

2005年度（平成17年度）事業の概要……1
1．はじめに……1
2．運営専門委員会・調査部会……1
3．埋蔵文化財調査の概要……4
(1) 川内北地区の調査……4
(2) 川内南地区の調査……4
4．遺物整理作業……9
5．保存処理事業……10
6．資料保管状況……10
7．研究活動……12
(1) 受託研究・共同研究等……12
(2) 学会発表等……13
(3) 資料調査等……13
(4) 科学研究費採択状況……13
8．教育普及活動……14
(1) 非常勤講師……14
(2) 保管資料の貸出……14
(3) 外部からの派遣依頼等……14
(4) 広報活動……14

引用・参考文献
英文要旨

図　目　次

図1　東北大学と周辺の遺跡……2
図2　仙台城と二の丸の位置……3
図3　川内北地区調査地点……6
図4　川内南地区調査地点……7
図5　青葉山地区調査地点……8
図6　収蔵遺物量の推移……11

表　目　次

表1　2005年度調査概要表……4
表2　年度ごとの収蔵遺物箱数の推移……11

2005年度（平成17年度）事業の概要

１．はじめに

東北大学には、仙台市内の各キャンパスに加えて、多くの研究施設がある。これらの各地区構内には、多くの埋蔵文化財が存在している（図１）。特に川内地区は、ほぼ全域が近世の仙台城跡二の丸地区と武家屋敷跡にあたっている（図２）。東北大学構内での施設整備等に伴う埋蔵文化財調査については、1983年度に東北大学埋蔵文化財調査委員会が組織されて以降、その実務機関である埋蔵文化財調査室が、調査の任にあたってきた。1994年度には、埋蔵文化財調査委員会を改組し、学内共同利用施設としての埋蔵文化財調査研究センターが設置され、調査委員会の事業を引き継いだ。2006年度からは、大学法人化に伴う組織・定員見直しの結果、特定業務組織の埋蔵文化財調査室へと改組されて現在に至っている。

本年報は、2005年度のセンターの調査および研究教育活動など、各種事業についてまとめたものである。

２．運営専門委員会・調査部会

東北大学埋蔵文化財調査研究センターでは、センターの運営に関する重要事項を審議する運営専門委員会と、運営専門委員会の下に埋蔵文化財調査に関する専門的事項を審議する調査部会が設置されており、委員会・部会の審議をもとに運営が進められている。通常は、運営専門委員会は年度当初に一回開催し、そこで年間の事業予定・予算等などの基本的事項を審議している。調査に関わる具体的かつ専門的な事項は、必要に応じて調査部会を開催して審議することとしている。

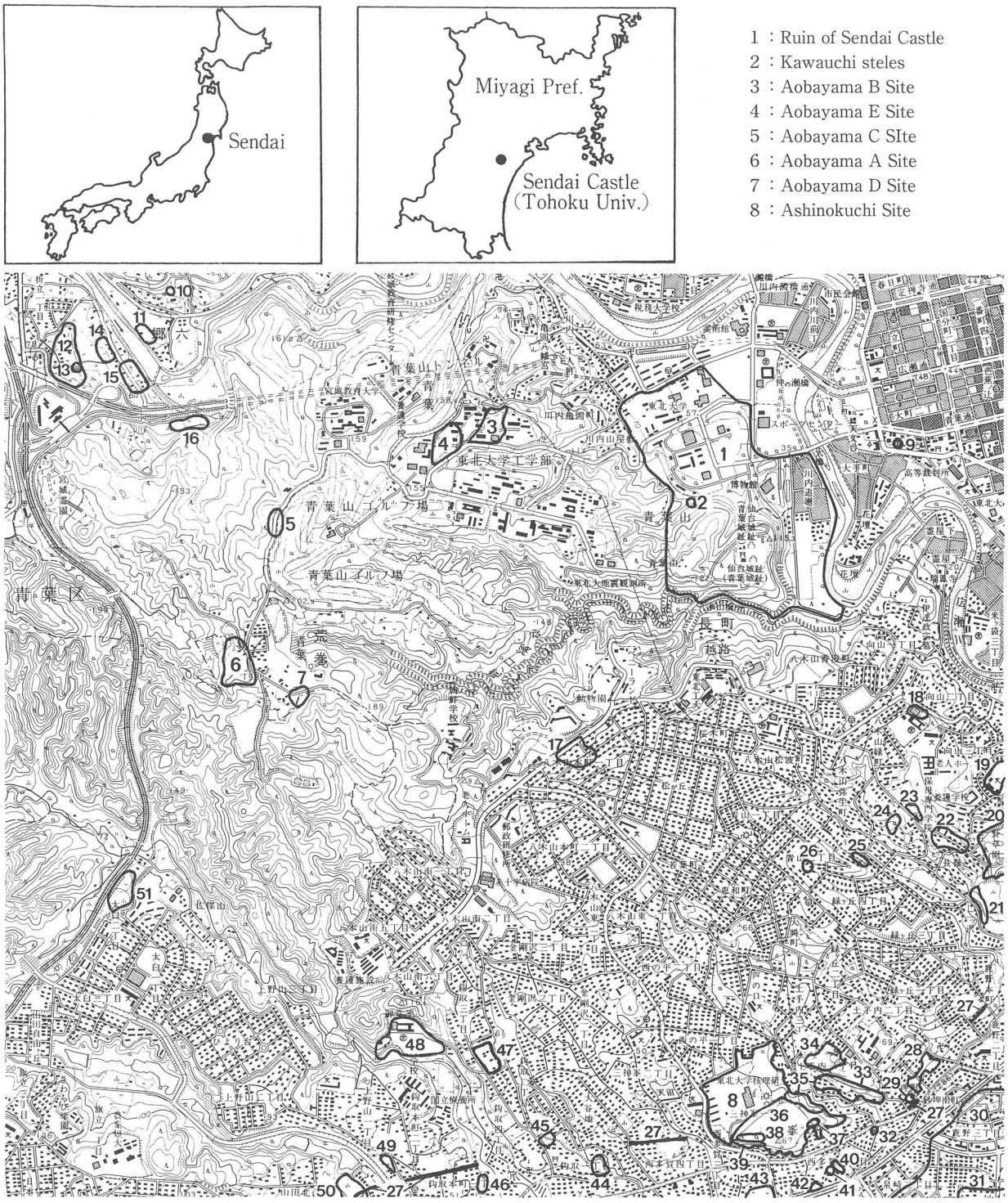
2005年度（平成17年度）は、運営専門委員会は２回開催した。６月に開催した運営専門委員会は、例年開催している年度当初の委員会である。３月に開催した運営専門委員会は、翌2006年度当初からの、特定業務組織としての埋蔵文化財調査室への改組を控え、必要となる規定の改正について審議したものである。当年度は本格的な発掘調査がなかったことから、調査部会は開催していない。運営専門委員会の開催月日と議事内容は、以下の通りである。

埋蔵文化財調査研究センター運営専門委員会

６月13日　審議事項　（１）規定の改正について
（２）平成17年度埋蔵文化財調査計画について
（３）平成17年度センター運営費について
（４）平成17年度の整理作業計画について
（５）運営専門委員会委員について
（６）総合学術博物館との統合について
（７）平成17年度非常勤講師の委嘱について
（８）その他

報告事項　（１）平成16年度埋蔵文化財調査結果について
（２）平成16年度センター運営経費決算について
（３）平成16年度の整理作業について
（４）その他

３月27日　審議事項　（１）規定の一部改正について
（２）その他



1：仙台城跡　2：川内古碑群　3：青葉山遺跡B地点　4：青葉山遺跡E地点　5：青葉山遺跡C地点　6：青葉山遺跡A地点
7：青葉山遺跡D地点　8：芦ノ口遺跡　9：片平仙台大神宮の板碑　10：郷六大日如来の碑　11：葛岡城跡　12：郷六城跡
13：郷六建武碑　14：沼田遺跡　15：郷六御殿跡　16：郷六遺跡　17：松ヶ岡遺跡　18：向山高裏遺跡　19：萩ヶ丘遺跡
20：茂ヶ崎城跡　21：二ツ沢横穴墓群　22：萩ヶ岡B遺跡　23：八木山緑町遺跡　24：二ツ沢遺跡　25：青山二丁目遺跡
26：青山二丁目B遺跡　27：杉土手（鹿除土手）　28：砂押屋敷遺跡　29：砂押古墳　30：富沢遺跡　31：泉崎浦遺跡
32：金洗沢古墳　33：土手内窯跡　34：土手内遺跡　35：土手内横穴墓群　36：三神峯遺跡　37：金山窯跡　38：三神峯古墳群
39：富沢窯跡　40：裏町東遺跡　41：裏町古墳　42：原東遺跡　43：原遺跡　44：八幡遺跡　45：後田遺跡　46：町遺跡
47：神漉山遺跡　48：御堂平遺跡　49：上野山遺跡　50：北前遺跡　51：佐保山東遺跡

図１　東北大学と周辺の遺跡
Fig.1　Archaeological sites and Tohoku University

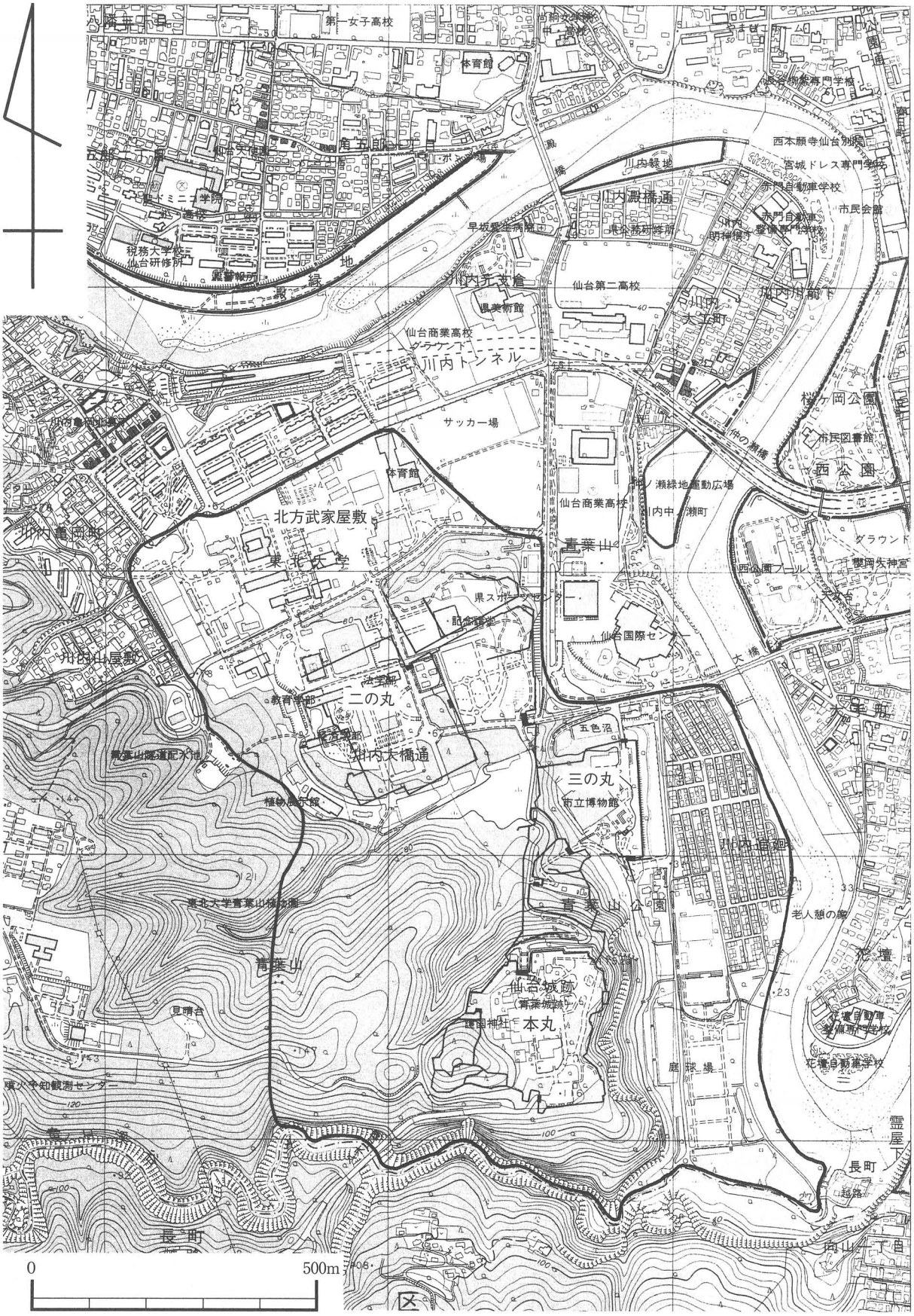


図２　仙台城と二の丸の位置
Fig.2　Distribution of Sendai Castle

３．埋蔵文化財調査の概要

2005年度は、川内地区において、立会調査10件を実施した（表１）。この内、川内北地区での立会調査が３件、川内南地区での立会調査が７件である。立会調査は、仙台市教育委員会と合同で実施している。当年度は、青葉山地区での調査は実施していないので、図５にこれまでの調査地点を示しておくに留める。

(1) 川内北地区の調査

川内北地区では、立会調査３件を実施した（図３）。

・川内保育所排水管工事に伴う調査（2005-2）

川内北地区に保育所を新築するのに関連した工事に伴う調査である。保育所本体は木造平屋建で、建設工事に伴う立会調査は、2004年度に実施した（2004-5）。今回の工事は、保育所から延びる排水管を、既設排水管に接続するためのものである。ポンプによる圧送によって排水するため、配管は浅く布設することとなった。既存管への接続部分のみが深くなるが、掘削範囲が狭いことと、既存管により既に掘削されている可能性が高いため、立会調査とした。近代以降の盛土部分の掘削に止まり、遺構・遺物は発見されなかった。

・川内保育所遊具新設工事に伴う調査（2005-4）

上記と同じ、川内北地区に新設された保育所関連の工事に伴う調査である。園庭に遊具を設置するための工事で、掘削範囲が狭く、本体工事の際より深くならないため、立会調査とした。近代以降の盛土部分の掘削に止まり、遺構・遺物は発見されなかった。

・アメフト・ラグビー兼用ゴール設置に伴う調査（2005-10）

川内北地区の東端には、グランドがある。グランドの西端は段丘崖となっており、グランドは西側より一段低いところに位置している。この区域においては、これまでの立会調査では、江戸時代の遺構面が残されている部分は確認できておらず、周知の遺跡の範囲外となっている。今回の工事は、アメフト・ラグビー兼用ゴールを設置するためのもので、掘削範囲は狭い。周知の遺跡の範囲外であるため、学内での措置として、立会調査を行った。新しい時期の盛土や埋め戻し土の掘削に止まり、遺構・遺物は発見されなかった。

(2) 川内南地区の調査

川内南地区は、仙台城跡の二の丸地区に相当する。仙台城跡は全体では約103haに及ぶが、本丸と二の丸の一部を除く約66haが、2003年（平成15年）８月に国の史跡に指定された。残りの約37haについては、中・長期的な視点から、将来的に国史跡を目指すこととされている。この史跡に指定された区域については、史跡管理団体

表１　2005年度調査概要表
Tab.1　Excavations on the campus in the fiscal year 2005

調査の種類	地　区	調　査　地　点（略号）	原　因	調査期間	面　積	時　期
立会調査	川内南	経済学研究棟南側（2005-1）	外灯増設等工事	5/18･23	－	－
	川内北	留学生センター西側（2005-2）	川内保育所排水管工事	5/20	－	－
	川内南	文・教・法学研究棟北側（2005-3）	雨水配管改修工事	8/9	－	－
	川内北	川内保育所内（2005-4）	保育所遊具新設工事	8/10	－	－
	川内南	付属図書館南側（2005-5）	屋外ガス管改修工事	9/28	－	－
	川内南	記念講堂西側（2005-6）	記念碑説明板設置	9/30	－	－
	川内南	旧半導体研究所周辺（2005-7）	旧半導体研究所改修機械設備その他工事	10/14	－	－
	川内南	文科系厚生施設南側（2005-8）	文科系厚生施設改修工事	1/24	－	－
	川内南	北西端受水槽北側（2005-9）	川内団地除鉄装置改修工事	3/10	－	－
	川内北	グランド（2005-10）	アメフト・ラグビー兼用ゴール設置	3/16	－	－

である仙台市によって、2004年（平成16年）３月に『仙台城跡整備基本構想』が策定され、2005年（平成17年）３月には『仙台城跡整備基本計画』が策定され公表された。

策定された『仙台城跡整備基本計画』によると、東北大学の川内南地区は、「第四種保存地区」とされている。これについては、「史跡指定地外ではあるが、将来的に指定を目指す範囲となる未指定地を第四種保存地区とする。第四種保存地区については、埋蔵文化財の発掘調査を前提にし、その調査結果によっては、計画されている開発行為の計画変更や工法の変更等を事業者と調整し、遺構に与える影響が最小限になるよう協力を求める。」とされている（『基本計画』14頁）。東北大学での現実的な対処方法としては、地下の遺構に影響を与えない工法を工夫して、工事を実施することが必要となる。以下の立会調査を実施した工事も、基本的に地下の遺構に影響を与えない形で実施するように、工法などを検討するよう施設部をはじめとする関係部局に要請し、行っているものである。

2005年度は、川内南地区では、立会調査７件を実施した（図４）。

・外灯増設等工事に伴う調査（2005-1）

経済学部研究棟南側の駐車場周辺に、外灯を増設する工事に伴う調査である。外灯の増設及び、ケーブルの埋設工事であり、掘削範囲が狭いため立会調査とした。北側の外灯増設場所２ヶ所において、江戸時代に遡る可能性のある地層や、江戸時代の施設の一部となる可能性のある大きな石が露出した。予定通りの掘削深さにするには、これらを破壊することとなるため、計画を変更する必要が生じた。施設部で検討した結果、基礎掘削の範囲を広げ、基礎の平面形状を大きくすることで対処することとし、それ以上深く掘削しないようにした。これら以外の場所では、遺構・遺物は発見されなかった。

・雨水配管改修工事に伴う調査（2005-3）

文・教・法学部研究棟北側の道路の北側に沿って東西に延びる雨水側溝と、それに接続する雨水配管の改修工事である。掘削を伴う工事は、配管埋設、側溝設置、配管集水桝設置、側溝接続桝設置であった。既存の側溝・配管を改修する工事であったため、新たな掘削は可能な限り生じないように計画を検討するよう施設部に要請した結果、大部分は、既存施設の設置時に掘削された範囲内に納めることが可能となった。そのため、立会調査で対処することとした。掘削は大学によって既に掘削された範囲に止まり、遺構・遺物の発見はなかった。

・屋外ガス管改修工事に伴う調査（2005-5）

附属図書館本館の南側に埋設されていた既存ガス管が老朽化し、ガス漏れをおこしたことによるガス管改修工事である。既存管の上に、新しいガス管を埋設することとなった。工事による掘削は、既に掘削された範囲に止まるため、立会調査とした。遺構・遺物の発見はなかった。

・記念碑説明板設置に伴う調査（2005-6）

川内南地区を南北に走る道路沿いには桜並木があるが、この桜並木は中川善之助法学部教授の定年退官を記念した法学部有志によって1960年代に植えられた。その由来によって「中善並木」と呼ばれている。この中善並木を記した記念碑が桜並木の北端近くに置かれているが、それを解説する説明板設置に伴う調査である。極めて小規模な掘削のため、立会調査で対処することとした。遺構・遺物は発見されていない。

・旧半導体研究所改修機械設備その他工事に伴う調査（2005-7）

川内南地区の北西側には、半導体研究所があり、財団法人半導体研究振興会が土地建物を所有していた。同財団の事業の見直しによって、この研究所での事業は廃止されることとなり、建物が東北大学に寄付された。東北大学では、教育・学生支援部入試課および入試センターなどがこの建物を利用することとなった。そのための改装などの工事で、建物の外側での掘削は、排水管埋設、パスカード通過システム装置設置、屋外案内板設置、道路反射鏡設置の４件であった。このうち道路反射鏡は、道路の北側に設置されたため、設置位置は川内北地区となるが、一連の工事のため便宜的にこちらに含めている。旧半導体研究所付近では、もとの地形が

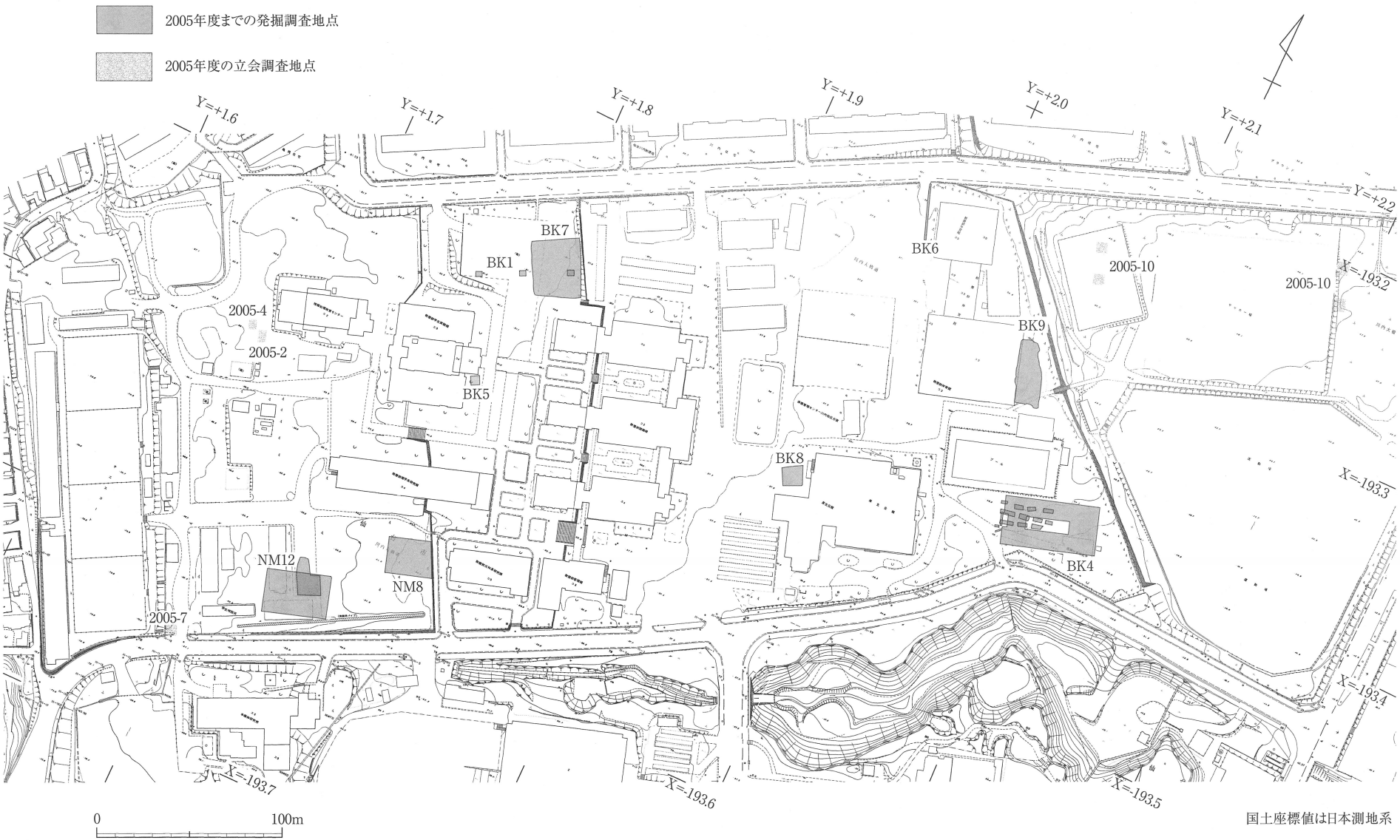


図３　川内北地区調査地点
Fig.3　Locations of excavations at Kawauchi-Kita campus (NM i.e. Secondary Citadel, BK i.e. samurai residence)

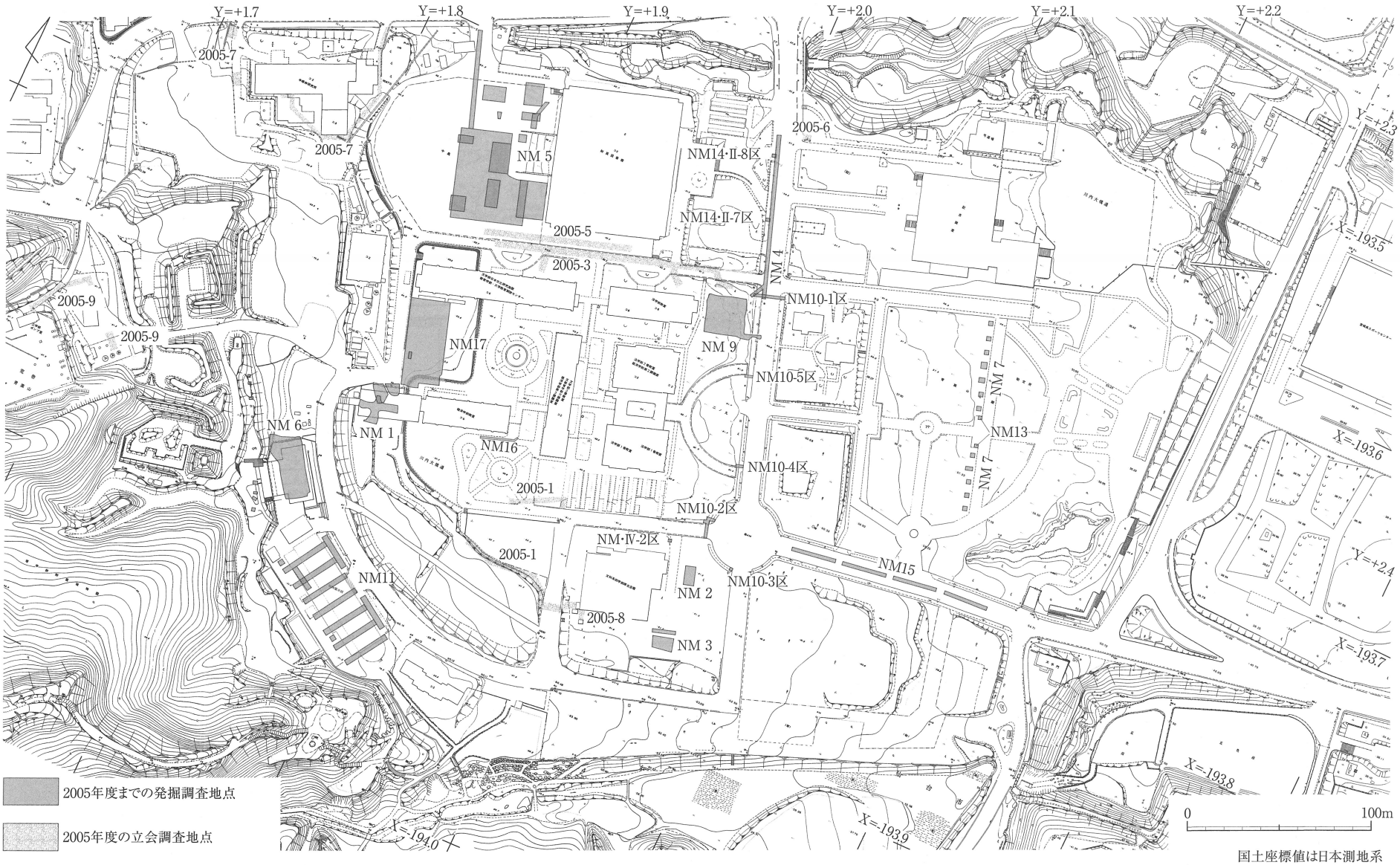


図４　川内南地区調査地点
Fig.4　Locations of excavations at Kawauchi-Minami campus (NM i.e. Secondary Citadel)

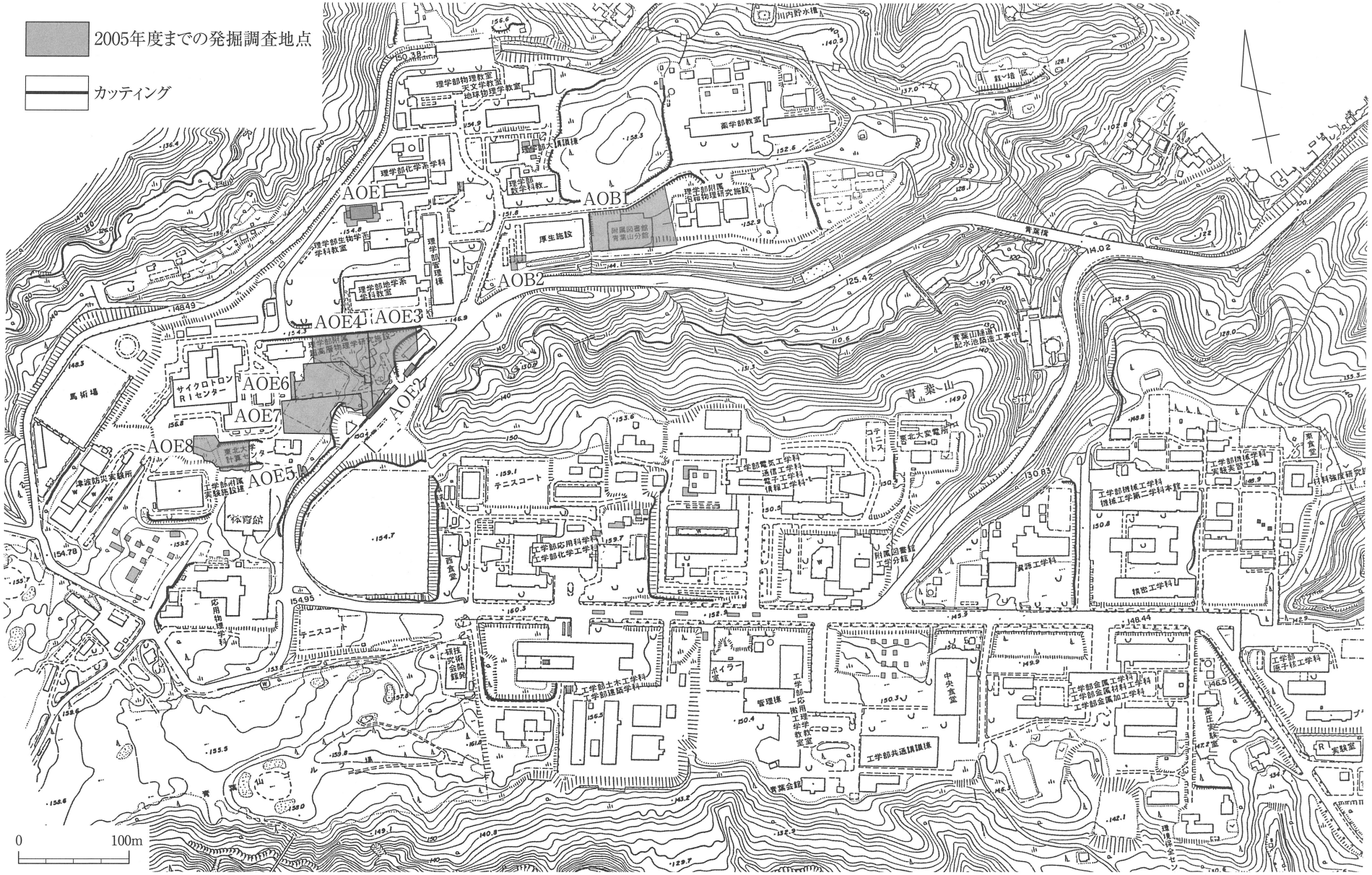


図５　青葉山地区調査地点
Fig.5　Locations of excavations at Aobayama campus

大きく改変されている可能性が高いこと、いずれの工事おいても掘削範囲が狭いことから、立会調査とした。建物東側では既に削平を受け、表土除去後すぐに地山が露出したところもあったが、いずれにおいても遺構・遺物は発見されなかった。

・文科系厚生施設改修工事に伴う調査（2005-8）

文科系厚生施設の改修工事で、工事のほとんどは内装に関わるものであったが、屋外で掘削を伴う工事が１ヶ所だけ行われた。本体建物から、南側の既設屋外キュービクルに接続している電気ケーブルの改修である。既に埋設されている既存電気ケーブルの上に、新たな電気ケーブルを埋設することとなった。既に掘削された部分の掘削に止まるため立会調査とした。遺構・遺物は発見されなかった。

・川内団地除鉄装置改修工事に伴う調査（2005-9）

川内南地区の西端の、青葉山地区への道路を登ったところには、川内地区や青葉山地区に給水するための、受水槽、送水ポンプ室などの施設が置かれている。その中に、井戸水の鉄分を除去する除鉄装置があるが、その改修工事に伴い、電気ケーブルを埋設する工事である。これまでの立会調査によって、この区域では、もとの地形が大きく改変されている可能性が高いこと、掘削範囲も狭く浅いことから、立会調査で対処することとした。調査の結果、掘削は新しい時期の盛土や埋め戻し土の範囲に止まり、遺構・遺物は発見されなかった。

４．遺物整理作業

2005年度は、『東北大学埋蔵文化財調査年報19第１分冊』と『東北大学埋蔵文化財調査年報20』の２冊を刊行した。

『東北大学埋蔵文化財調査年報19第１分冊』は、2001年度（平成13年度）に実施した調査の成果をとりまとめたものである。掲載した調査報告は、以下のとおりである。

2001年度（平成13年度）調査分

芦ノ口遺跡第５次調査（理学研究科附属原子核理学研究施設GeＶγ線実験棟新営に伴う調査）

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第７地点（マルチメディア総合研究棟新営に伴う調査）検出遺構

2001年度実施の調査では、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第７地点の出土遺物が膨大なため、年報19は５分冊に分けて、順次刊行することとした。そのため武家屋敷地区第７地点については、第１分冊では検出遺構までを掲載し、出土遺物については、第２分冊以降に掲載することとした。芦ノ口遺跡第５次調査については、検出遺構・出土遺物を含めて、調査報告全体を掲載した。

『東北大学埋蔵文化財調査年報20』は、2002年度（平成14年度）に実施した調査の成果をとりまとめたものである。掲載した調査報告は、以下のとおりである。

2002年度（平成14年度）調査分

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第８地点（川内北地区厚生会館前上屋取設工事に伴う調査）

青葉山Ｅ遺跡第７次調査（理学研究科総合研究棟（Ⅲ期）新営計画に伴う調査）

青葉山Ｅ遺跡第８次調査（工学研究科共通駐車場整備に伴う調査）

青葉山Ｅ遺跡第７次調査については、2001年度と2002年度の２ケ年にわたって調査を実施している。2002年度調査分を報告した年報20に、２ケ年分の調査成果を、あわせて掲載した。

整理作業としては、上記報告書に掲載した調査を中心に、次の５件の作業を併行して行った。

・仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第７地点（ＢＫ７）

2001年度に調査を行った、マルチメディア総合研究棟新営に伴う調査の整理作業である。江戸時代の各時期の、多種多様な遺物が大量に出土しており、2002年度より整理作業を継続して行っている。当年度は、遺構図面の整理・トレース、各種遺物の実測作業やトレースなどの作業を行った。検出遺構に関しては、年報19第１

分冊にとりまとめて掲載した。

・富沢芦ノ口遺跡第５次調査（ＴＭ５）

2001年度に調査を行った、理学研究科附属原子核理学研究施設GeＶγ線実験棟新営に伴う調査の整理作業である。検出遺構、出土遺物の量がさほど多くないため、2005年度の単年度で整理作業を実施することとした。遺構図面の整理・トレース、出土遺物の実測図作成・トレース・写真撮影などの作業を行った。その成果については、年報19第１分冊にとりまとめて掲載した。

・青葉山Ｅ遺跡第７次調査（ＡＯＥ７）

2001年度と2002年度の２ケ年にわたって調査を実施した、理学研究科総合研究棟（Ⅲ期）新営計画に伴う調査の整理作業である。2003年度より整理作業を継続して実施している。縄文時代早期・中期・晩期の土器・石器が多数出土している。当年度は、遺構図面の整理・トレース、遺物の実測図作成・トレース・写真撮影などの作業を実施した。その成果については、年報20にとりまとめて掲載した。

・仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第８地点（ＢＫ８）

2002年度に調査を実施した、川内北地区厚生会館前上屋取設工事に伴う調査の整理作業である。検出遺構、出土遺物の量がさほど多くないため、2005年度の単年度で整理作業を実施することとした。遺構図面の整理・トレース、出土遺物の実測図作成・トレース・写真撮影などの作業を行った。その成果については、年報20にとりまとめて掲載した。

・青葉山Ｅ遺跡第８次調査（ＡＯＥ８）

2002年度に調査を実施した、工学研究科共通駐車場整備に伴う調査の整理作業である。検出遺構はなく、出土遺物もわずかであったため、2005年度の単年度で整理作業を実施することとした。出土遺物の実測図作成・トレース・写真撮影などの作業を行った。その成果については、年報20にとりまとめて掲載した。

５．保存処理事業

東北大学埋蔵文化財調査研究センターでは、仙台城跡の出土遺物を中心に、木製品・漆塗製品・金属製品など、保存処理を必要とする遺物を多数保管している。この内、木製品と金属製品については、当センターで保存処理を進めている。木製品については、1997年度以降、糖アルコール法によって処理している（年報16）。

木製品については、2004年度までに、2000年度調査分まで保存処理が終了していた。そのため2005年度からは、2001年度に調査を実施した、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第７地点（ＢＫ７）の出土木製品の処理を開始した。武家屋敷地区第７地点から出土した木製品は、木簡を含め膨大な数量にのぼるため、４～５ヶ年間が必要となる見込みである。2005年度は、箸や下駄などを中心に処理を行った。金属製品では、2000年度に調査を実施した仙台城跡二の丸第17地点出土の銅製品の処理を行った。

６．資料保管状況

東北大学埋蔵文化財調査研究センターでは、ほとんどの遺物は容量30.3リットルのコンテナ（ポリプロピレン製・サンボックス＃32）に収納している。このコンテナに入らない大型のものについては、さらに大きなコンテナや、適宜木箱を作成して収納している。全体の遺物総量を把握するために、容器の大小にかかわらず、箱の数で数量を管理している。ただし、木製品や金属製品など保存処理を行う必要のあるものは、別に保管しているため、これには含まれていない。当センターの前身である東北大学埋蔵文化財調査委員会が発足した1983年度からの、遺物総量の推移を箱数で比較したのが、図６である。

保管遺物を収納した箱数の推移については、これまでも年報で報告してきたところであるが、箱数に誤りがあることが判明した。台帳記載の箱数を集計する際の単純なミスであり、本年報で報告する箱数が、訂正後の箱数

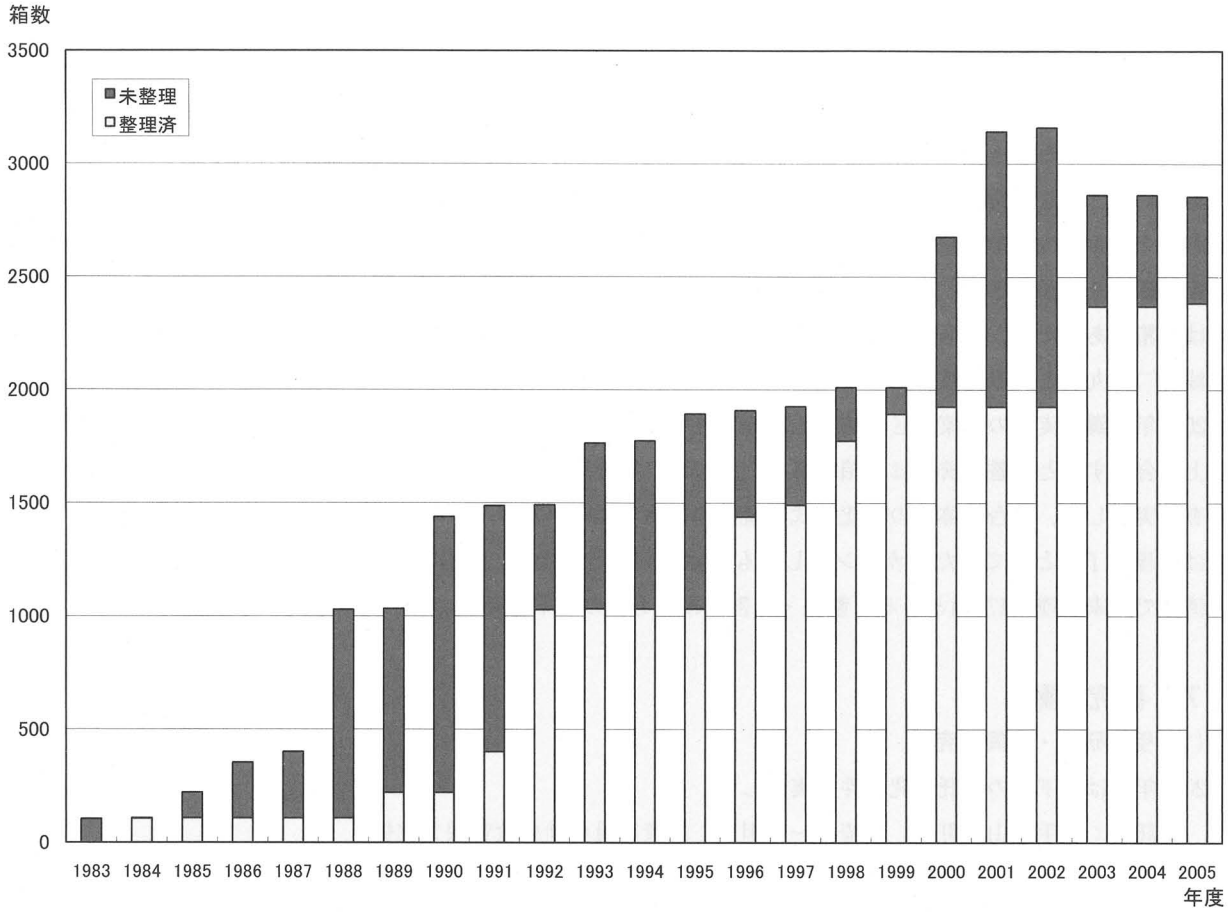


図６　収蔵遺物量の推移
Fig.6　Graph showing transition of amount of artifact in storage (showed by number of case)

表２　年度ごとの収蔵遺物箱数の推移
Tab.2　Transition of number of cases counted every fiscal year to store artifact

年　度	未整理箱数	整理済箱数	合計箱数	備　考
1983	104	0	104	
1984	4	104	108	年報１（1983年度調査分）刊行
1985	113	108	221	年報２（1984年度調査分）刊行
1986	245	108	353	
1987	293	108	401	
1988	920	108	1,028	
1989	811	221	1,032	年報３（1985年度調査分）刊行
1990	1,218	221	1,439	
1991	1,086	401	1,487	年報４・５（1986・87年度調査分）刊行
1992	463	1,028	1,491	年報６（1988年度調査分）刊行
1993	732	1,032	1,764	年報７（1989年度調査分）刊行
1994	742	1,032	1,774	
1995	861	1,032	1,893	
1996	469	1,439	1,908	年報８（1990年度調査分）刊行
1997	435	1,491	1,926	年報９・10（1991・92年度調査分）刊行
1998	236	1,774	2,010	年報11・12（1993・94年度調査分）刊行
1999	117	1,893	2,010	年報13（1995年度調査分）刊行
2000	751	1,926	2,677	年報14・15・16（1996・97・98年度調査分）刊行
2001	1,216	1,926	3,142	年報17（1999年度調査分）刊行
2002	1,234	1,926	3,160	
2003	491	2,370	2,861	二の丸第17地点整理後詰め直し等で箱数減少
2004	491	2,370	2,861	年報18（2000年度調査分）刊行
2005	472	2,384	2,856	年報19-1・20（2001・02年度調査分）刊行

である。そのため、年度ごとの箱数の推移を、あらためて表２に示しておいた。

2005年度末時点で、当センターで保管している遺物総量は2,856箱である。今年度は、遺物が出土した調査がなかったため、新たに増加したものはない。整理作業が終了し、整理作業後の詰め直しによって、前年度と比べると５箱の減少となっている。

整理終了分として新たにカウントしたものは、次のとおりである。2001年度に調査を実施した芦ノ口遺跡第５次調査（ＴＭ５）は、整理前が１箱であったものが、接合などで遺物が大きくなったため、整理後には２箱となり、１箱増加した。2001年度と2002年度の２ケ年で調査を実施した青葉山Ｅ遺跡第７次調査（ＡＯＥ７）は、整理前には16箱であったが、整理作業後の詰め直しによって９箱となり、７箱減少した。2002年度に調査を実施した仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第８地点（ＢＫ８）は、整理前が１箱であったが、整理後は２箱となった。同じく2002年度調査実施の青葉山Ｅ遺跡第８次調査（ＡＯＥ８）は、整理前が１箱で、整理後も変化なく１箱である。以上を合計すると、整理前には19箱であったものが、整理作業後には14箱と、５箱の減少となった。2001年度に調査を実施した、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第７地点（ＢＫ７）の整理作業は継続中のため、この調査分では整理終了分として新たにカウントしたものはない。そのため、全体の箱数2,856箱の内、2,384箱が整理・報告済みで、未整理は472箱となる。整理・報告済みのものの比率は83.5％である。

７．研究活動

（1）受託研究・共同研究等

2005年度は、下記の受託研究１件を実施した。

受託者：岩手県山田町長　沼崎喜一（担当：教育委員会社会教育課文化係）

研究課題：房の沢古墳群出土品保存処理についての研究

研究目的：山田町房の沢古墳群から出土した鉄製品（鉄刀４点）を恒久的に保存するため、有効な保存処理方法（脱塩処理および樹脂含浸による強化と修復）の研究を行う。

研究経費：2,080,000円

岩手県山田町の房の沢古墳群は、８世紀を中心に築造された末期古墳で、豊富な鉄製品が出土している。1996・1997年度に発掘調査され、出土鉄製品は、1997年度に保存処理が施されていた。しかし、脱塩処理が不充分であったため、その後の経過観察によって進行性の腐食生成物が確認され、再処理が必要な状態となっていた。これらの鉄製品には、木質・繊維・漆など有機質が多数付着して遺存しており、通常の方法では再処理が困難であった。そのため、東北芸術工科大学の松井敏也講師（2004年から筑波大学大学院講師）・手代木美穂氏と協力しつつ、同古墳群出土鉄製品の内の５点の鉄刀について、再処理方法を検討し再処理を実践することを、東北大学埋蔵文化財調査研究センターが受託研究として担当することとなった。この受託研究は2003年度と2004年度の２ヶ年にわたって実施し、松井氏らによって開発された純水を利用した脱塩方法（松井敏也ほか2005）を採用することで、再処理を行うことができた。

房の沢古墳群からは、様々な種類の鉄製品が多数出土している。２ケ年で再処理を実施したのは鉄刀５点のみであり、全体から見ればごく一部である。そのため山田町教育委員会では、国庫補助金を得て、残る房の沢古墳群出土鉄製品の再処理を、５ヶ年で実施する計画を立てた。この再処理の実施を、当センターが山田町からの受託研究として行うこととなった。本年度は新たな５ヶ年計画の初年度として、鉄刀４点を対象資料とし、以下の手順で再処理を行った。

①事前調査

・処理に先立って、資料の状態を調査し、必要な記録を作成する。

②クリーニング

・前回処理の際に除去が不十分なまま残された錆、および新たに生成した錆を、ミニグラインダーやエアブラシ等を用いて除去する。

③脱脂処理

・前回処理で含浸されている樹脂を除去するため、有機溶剤（アセトン）で洗浄する。

④脱塩処理

・純水を用いて、資料中に残存している塩類を除去する。

・脱塩処理は、純水に資料を一定期間浸漬し静置したあと水を替える方法と、純水を滴下し同時に排水する流水法の２段階で行う。

・純水は、カートリッジ式のイオン交換樹脂による純水製造装置から供給する。

・脱塩状況の確認のため、定期的に導電率を計測し、評価しつつ進める。

⑤脱水処理

・樹脂含浸に先立って、資料の水分を除去するよう、充分な乾燥を行う。

⑥樹脂含浸

・資料全体を強化するため、アクリル系樹脂を含浸する。その際、微細な空隙内まで樹脂が行き渡るように、減圧状態で含浸を行う。

⑦接合・修復・補色

・本体から分離した破片などを接合する。

・錆で大きく損なわれた部分など、強化が必要な部分は、エポキシ系樹脂を充填して修復する。・エポキシ系樹脂を充填した部分は、違和感がないような形で補色する。

⑧報告書作成

・①～⑦の作業過程、及び結果をとりまとめた報告書を作成する。

(2) 学会発表等

センターの業務にかかわる、学会での研究発表等としては、次の発表を行った。

・日本文化財科学会第22回大会ポスターセッション　2005年７月９・10日　於：北海道大学

「岩手県山田町房の沢古墳群の保存処理済み鉄製遺物の再処理」

発表者：藤沢敦・千葉直美・柴田恵子・松井敏也・手代木美穂・川向聖子

上記の、岩手県山田町から依頼されて2003～2004年度に実施した受託研究の成果を、取りまとめて発表した。

(3) 資料調査等

センター業務に関わる資料調査等としては、以下の２件で、それぞれ担当する調査研究員が出張した。

2005年７月９～10日　日本文化財科学会第22回大会

於：北海道大学　藤沢敦・柴田恵子

上記研究発表に関わる出張である。

(4) 科学研究費採択状況

2005年度における、当センター調査研究員の科学研究費等の採択は、次のとおりである。

藤沢　敦　科学研究費補助金　基盤研究（C）（２）（代表・継続）

「小規模墳の消長に基づく古墳時代政治・社会構造の研究」

８．教育普及活動

(1) 非常勤講師

2005年度に、当センターの調査研究員で、非常勤講師を担当したものは次のとおりである。

藤沢　敦　宮城教育大学　考古学講義（後期）

藤沢　敦　岩手大学　　日本史特論ⅡＡ（前期集中講義）

(1) 保管資料の貸出

当センター保管の資料の貸出依頼等としては、次のとおりであった。

・貸出先：東北大学創立百周年記念事業・東北大学附属図書館平成17年度企画展
「スローフードのルーツをたどる」
貸出資料：仙台城跡二の丸第５地点出土「塩引」関係木簡３点
貸出期間：2005年11月16日～11月30日

・貸出先：仙台市教育委員会　仙台城本丸跡ガイダンス施設「仙台城見聞館」展示パネルへの写真使用
貸出資料：仙台城跡二の丸第２地点発掘現場・第９地点16号土坑出土遺物集合写真　計２点

・貸出先：仙台市博物館　『仙台市史　特別編７　城館』への写真掲載
貸出資料：仙台城跡二の丸地区調査状況・出土遺物写真　計10点

・貸出先：東北大学出版会　『東北－その歴史と文化を探る（人文社会科学講演シリーズⅠ）』への写真掲載
貸出資料：青葉山Ａ遺跡出土石器写真、青葉山Ｅ遺跡竪穴住居跡調査状況・出土遺物写真　計４点

(3) 外部からの派遣依頼等

当センターの業務に関わって、あるいは調査研究員の専門領域に関わる事項で、外部から派遣等の依頼があったのは、次のとおりであった。

担当者：藤沢敦

2005年５月28日	仙台市地底の森ミュージアム友の会 春の史跡めぐり－長町周辺の古墳めぐり－講師
2005年９月10・11日	『阿光坊古墳群シンポジウム』発表「列島における「末期古墳」」 主催：下田町教育委員会　於：イオン下田ショッピングセンター
2005年９月25日	仙台市市民文化事業団　公開講座講師　於：エル・パーク仙台　「装飾古墳の世界」
2005年10月９日	仙台市市民文化事業団　装飾古墳見学ツアー講師
2006年３月13日	平成17年度第１回大安場古墳整備指導委員会

(4) 広報活動

2005年度は、特に広報活動は行わなかった。

〈引用・参考文献〉

仙台市教育委員会　1994　『仙台市青葉区文化財分布地図』

仙台市教育委員会　1995　『仙台市太白区文化財分布地図』

仙台市教育局生涯学習部文化財課　2004　『仙台城跡整備基本構想』

仙台市教育局生涯学習部文化財課　2005　『仙台城跡整備基本計画』

仙台市史編さん委員会編　2006　『仙台市史　特別編７　城館』仙台市

東北大学埋蔵文化財調査委員会　1985　『東北大学埋蔵文化財調査年報１』

東北大学埋蔵文化財調査委員会　1986　『東北大学埋蔵文化財調査年報２』

東北大学埋蔵文化財調査委員会　1990　『東北大学埋蔵文化財調査年報３』

東北大学埋蔵文化財調査委員会　1992　『東北大学埋蔵文化財調査年報４・５』

東北大学埋蔵文化財調査委員会　1993　『東北大学埋蔵文化財調査年報６』

東北大学埋蔵文化財調査委員会　1994　『東北大学埋蔵文化財調査年報７』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター　1997　『東北大学埋蔵文化財調査年報８』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター　1998　『東北大学埋蔵文化財調査年報９』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター　1998　『東北大学埋蔵文化財調査年報10』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター　1999　『東北大学埋蔵文化財調査年報11』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター　1999　『東北大学埋蔵文化財調査年報12』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター　2000　『東北大学埋蔵文化財調査年報13』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター　2001　『東北大学埋蔵文化財調査年報14』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター　2001　『東北大学埋蔵文化財調査年報15』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター　2001　『東北大学埋蔵文化財調査年報16』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター　2002　『東北大学埋蔵文化財調査年報17』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター　2005　『東北大学埋蔵文化財調査年報18』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター　2006　『東北大学埋蔵文化財調査年報19第１分冊』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター　2006　『東北大学埋蔵文化財調査年報20』

東北大学埋蔵文化財調査室　2007　『東北大学埋蔵文化財調査年報19第３分冊』

東北大学埋蔵文化財調査室　2007　『東北大学埋蔵文化財調査年報21』

東北大学埋蔵文化財調査室　2008　『東北大学埋蔵文化財調査年報19第４分冊』

東北大学埋蔵文化財調査室　2008　『東北大学埋蔵文化財調査年報22』

花登正宏編　2006　『東北－その歴史と文化を探る（人文社会科学講演シリーズⅠ）』東北大学出版会

藤沢　敦・千葉直美・柴田恵子・松井敏也・手代木美穂・川向聖子　2005　「岩手県山田町房の沢古墳群の保存処理済み鉄製遺物の再処理」『日本文化財科学会第22回大会研究発表要旨集』pp.308～309　日本文化財科学会

松井敏也・手代木美穂・松田泰典・川向聖子　2005　「繊維や漆が付着した保存処理済み鉄製遺物の再脱塩処理方法の検討」『日本文化財科学会第22回大会研究発表要旨集』pp.294～295　日本文化財科学会

宮城県教育委員会　1998　『宮城県遺跡地図』宮城県文化財調査報告書第176集

REPORT
OF THE ARCHAEOLOGICAL RESERARCH ON THE CAMPUS OF
TOHOKU UNIVERSITY
Vol.23, March 2009

The Archaeological Reserch Office
On the Campus, Tohoku University
Katahiracho, Aoba Ward, Sendai 980-8577 JAPAN

Summary

On the Campus of Tohoku University, a lot of sites are known. Among them, Sendai Castle is the most famous and largest one. Almost all of the south part of Kawauchi campus is located on its secondary citadel area. The north part of Kawauchi campus is located on the sites of samurai residences. Aobayama campus includes Initial Jomon saite. In Japan, if existing circumstances need to be change in the known site area, excavation reserch on the buried cultural properties must be carried out. The Office mainly carries out salvage excavations of archaeological sites on campus.

This volume carries reports of activities which were conducted by the Archaeological Research Center on the Campus, Tohoku University in the fiscal year 2005.

In 2005, there was no excavation that the Center executed. At ten places where construction was done on Kawauchi campus, the Center carried out confirmation of presence or absence of archaeological remains. This volume includes reports about results of confirmation work with constructions, and activities which were conducted by the Center such as analyses, conservation work of artifacts and joint researches.

報告書抄録

ふりがな	とうほくだいがくまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう
書名	東北大学埋蔵文化財調査年報
副書名	
巻次	23
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	藤沢　敦
編集機関	東北大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒980-8577　宮城県仙台市青葉区片平二丁目１－１　TEL022-217-4995
発行年月日	西暦2009年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 (世界測地系)	東経 (世界測地系)	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
せんだいじょうあと 仙台城跡	みやぎけん 宮城県 せんだいし 仙台市 あおばく 青葉区 かわうち 川内41、 27－1	04100	01033	38° 15′ 20″ ～ 15′ 43″	140° 50′ 53″ ～ 51′ 20″	—	—	—

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
仙台城跡	城館	近世	なし	なし	

要約	2005年度に実施した埋蔵文化財調査の報告。2005年度は、立会調査を10ヶ所で実施したが、いずれにおいても遺構・遺物は発見されなかった。

東北大学埋蔵文化財調査年報23

平成21年３月31日

発行　東北大学埋蔵文化財調査室
〒980-8577 仙台市青葉区片平２丁目１－１
ＴＥＬ　022（217）4995

印刷　株式会社　東　北　プ　リ　ン　ト
ＴＥＬ　022（263）1166